

大麦栽培ごよみ

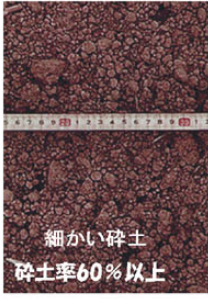
高品質で、売れる大麦づくりをめざして！

【収量構成の目安と品質目標】

収量	400kg/10a
穂数	450本/m ²
一穂粒数	30粒
2.3mm以上	85%
千粒重	35g
硝子率	40%以下

★目標苗立数と播種量の目安

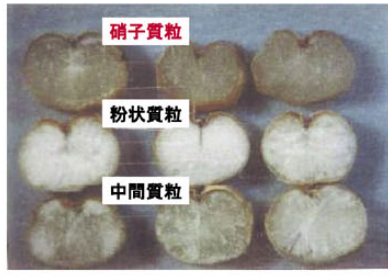
播種期	目標苗立数(本/m ²)	播種量の目安(kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月6半旬	140	6.0	6.5
10月上旬	150	6.5	7.0
10月中旬	200	8.5	9.0



～初期生育の確保が重要～

初期生育の確保のためのポイント

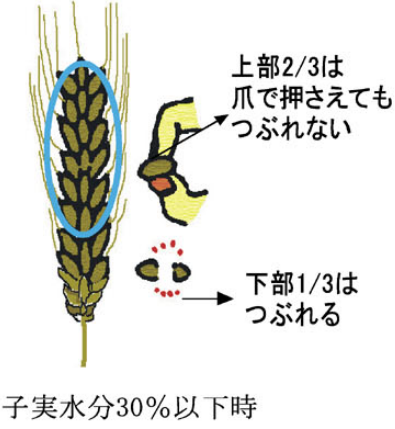
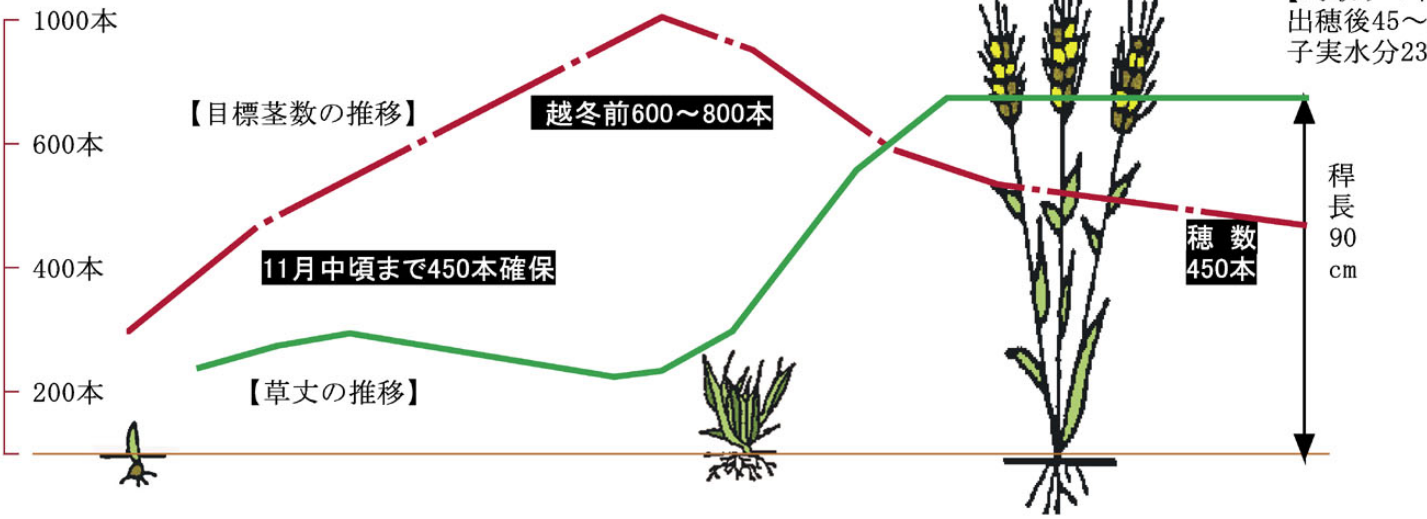
- 1.排水対策を徹底し、砕土率を高め、苗立率を向上させる。
- 2.播種時期に応じた適正播種量を厳守し、目標苗立数を確保する。
- 3.基準基肥量を守る。



大麦子実の切断面写真

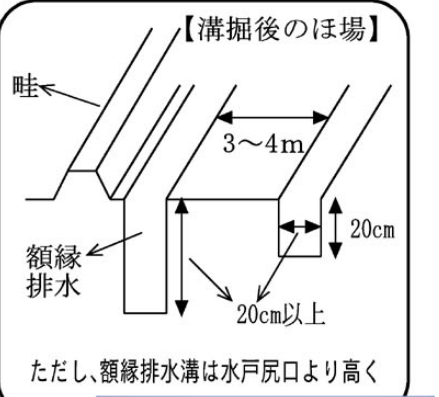
★施肥の目安(ドリル播、10a当たり)

施用時期	耕起前	播種時	播種1ヶ月後	消雪直後(2月下旬頃)	止葉展開期(4月上旬頃)
資材名・施用量	粒状苦土石灰 100~150kg	燐加安15号 ・10月上旬まで 30~35kg (散播 35~40kg) ・10月中旬 35kg (散播 40kg)	硫安 20kg	硫安 20kg以内	硫安 10kg以内 葉色が濃い場合は5kg以内
		LP大麦48号40kg	-	-	(追肥不要)



★は重点技術対策

9月中旬~下旬	10月上旬~	11~12月	積雪期間	3月	4月	5月	6月
★播種前の排水対策は確実に		★耕起は丁寧に		★適正播種量で苗立ち確保		★排水溝は随時手直しする	
★止葉展開期の追肥は葉色を確認して		★赤カビ病の防除		★刈取調整		★適期刈取りで高品質麦に	
消毒済種子の使用 ●消毒済種子を使用し、病害の発生を防止する。 (農協購入種子は消毒済み)		土壌pHの矯正 ●土壌pH6以上を目標に耕起前に粒状苦土石灰を100~150kg/10a施用する。		施肥・耕起・砕土・作溝・播種 ●草の多い場合は土壌処理剤を散布する。 ●サイドリッジヤを付け排水に努める。 ●考慮し、適正量とする。 ●基肥量や播種量は、播種時期、播種方法を向上を図る。(目標 砕土率60%以上) ●耕起作業は土が乾いた状態で、砕土率の一連の作業は1日で終了する。		追肥の施用 ●播種1ヶ月後の追肥により茎数(450本/m ²)を確保する。	
赤カビ病の防除 (遅れると防除効果が低下) ●葉色が濃い場合は施肥量を減らす) ●充実と品質の向上を図る。 ●止葉展開期の追肥は施肥時期と量を守り、粒の		刈取調整 ●シルバキユアフロアブル 2000倍液 150g/10a ●ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 又は ●2回目:1回目散布から1週間後 ●トップジンM水和剤1000倍 150g/10a ●トップジンM粉剤DL 4kg/10a 又は、 ●1回目:穂揃い期(開花始め)		適期刈取りで高品質麦に ●清掃を徹底する。 ●異種穀粒の混入を防止するためにコンバインの		●出穂後45~48日 ●子実水分23%から ●刈取りの目安は、子実に爪跡が残らなくなった頃。 ●除去する。 ● 収穫前に、ほ場内からカラスノエンドウを	



栽培管理のポイント